

第422回鉄鋼流通問題懇談会

2012年8月21日(火) 14:00

茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟・第一会議室」

△経済産業省新任担当官 ご紹介 山下隆一 鉄鋼課長
△ " 市丸 純 係長(生産担当)

議 題

- | | |
|----------------------------|------------|
| 1. 配布資料説明(全鉄連) | 3. 意見交換 |
| 2. 全鉄連情勢報告 | 4. 経済産業省挨拶 |
| (1) 地区の状況 | 5. 鉄流懇会長挨拶 |
| ○東京、大阪、愛知、東北地区概況報告 | 6. その他 |
| (2) その他地区の概況 | |
| ○鉄流懇8月例会で発表の各地区景況などアンケート結果 | |
| (3) 総括：林全鉄連会長 | |

○次回以降会議予定

2012年11月 日 () 14:30 ~

於：日本鉄鋼連盟4階第1会議室

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について（2012年8月）

発表項目	発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
		伊藤忠丸紅鉄鋼	岡谷鋼機	J F E 商事	日鐵商事
1. 需給動向 (景況感)		溶接鋼管類は熔協大手の値上げ表明により、ジリ安傾向の市況の下支え要因として期待されているが、盆明け後も実需低調の弱基調変わらず、在庫積み増しの動きも無く、苦戦を強いられている。今後他メーカーの値上げ動向も注目されるが、当面の実需環境は低調推移で弱含み基調が続きそうである。	6月末の薄板三品在庫は395万6千トンと前月比2.7%減少した。15ヵ月ぶりに400万トンを超える在庫調整の進展はみえるが、依然として水準は高く需給は引き締まっていない。回復基調の見える建築関連需要も繁忙はつきり分かれる斑模様となっており、店売りマーケット全体を押し上げるほどの力強さはなく、足元の市況は中国、韓国からの輸入材の影響もあり総じて弱含みで推移している。	6月末の厚板在庫は343千トンで前月比4千トン減。在庫量は2月以降減少が続き、在庫率も2ヶ月以下を継続しているが、一般店売の切板需要は相変わらず低迷が続き、切板価格もジリ安で推移。造船は低調。建産機は足元減産傾向にあり、先行き不透明感が増大。建築需要は回復傾向にある。	棒鋼 製品市況は、スクラップ価格横這いが続いており、ゼネコンは当用買い。即納、小口物件がメインとなっている。関東地区の受注数量は、若干の上向きとなつてはいるが、21万トン台と低水準で推移している。 形鋼 中小口物件の引合いや荷動きも回復基調となっており電炉メーカーの物件・スポット価格に底値感が出始めている。価格弱含みは解消され、低位横這いとなっている。 電炉メーカーからは9月契約より値戻ししたい意向も聞こえており、流通は市況反転に期待を寄せている
2. 需要産業動向		上期は好調だった自動車関連は、エコカー補助金の終了により、下期は減少傾向。建機関連も中国の調整が続いている為、生産調整に入り、減少傾向。建築関連はマンション建設において消費税増税前の駆け込み需要が見込まれ、震災復興関連でも被災地ではインフラ再構築、住民施設関連の建設が期待される。	6月の自動車生産は前年同期比20.3%増、販売は同47.9%増と高水準で推移している。しかしながら下期に向けてはエコカー補助金終了により完成車生産の反動減が予想される。建産機関連は中国景気の需要減退などが影響し、調整局面となっている。6月の弱電生産は、冷蔵庫が前年同月比0.5%増加となったほかはエアコン(同3.7%減)、薄型テレビ(同85.1%減)、洗濯機(同28.3%減)など軒並み減少。6月の新設住宅着工戸数は前年同期比0.2%減と5ヵ月ぶりのマイナス、建築着工床面積は同0.9%増と3ヵ月連続でプラスとなった。	造船の6月末手持工事量は2,962万G/Tで前月比5.4%減。6ヶ月連続の減少。建設機械の6月出荷金額は1,952億円で前年同月比3.5%減(30ヶ月振りの減)。内需は560億円で18.9%増(15ヶ月連続増)。外需は1,392億円で10.3%減(30ヶ月振り減)。産業機械の6月受注金額は4,492億円で前年同月比86.4%、内需は2,608億円(79.0%)、外需は1,884億円(99.4%)。鉄骨の需要は回復傾向にあり、秋以降の需要増に期待	6月の新設住宅着工戸数は、前年同月比0.2%減の72,566戸となっており、ほぼ横這い。しかし首都圏(東京、埼玉、千葉、神奈川)新設マンション着工戸数は、前年同月比23.2%減の4,288戸で、大幅に減少している 着工床面積は全体で、6,534千㎡(前年同月比0.4%減)となっている。
3. 輸出入動向		2012年6月度の溶接鋼管の輸入量は対前月比28%減の9,475トンとなっている。特に大部分を占める韓国材の輸入量が30%減(▲3,174トン)となっている。	6月の薄板三品輸入実績は、亜鉛メッキが前年同月比1.4%減少、熱延が同13.5%減少、冷延が同3.8%減少、合計で同9.0%減少の26.3万トンとなった。熱延は4月15%減、5月8%減と3ヵ月連続で減少。冷延は4月12%増、5月37%増から3ヵ月ぶりに減少。亜鉛メッキにおいては3月の6%増を除けば前年同月比2桁増が1年以上続いていた。三品種とも日本国内市況の低迷、国内ユーザーの在庫調整などから足元の流入は減っている	6月の輸入実績は36千トンで前月比11千トン減。韓国の減少が大半。輸出は320千トンで前月比25千トン減。	日本の鉄筋輸出は2012年上半期合計129,587mt、前年同期比5%減。メイン輸出国の韓国向けの需要家希望は足元FOBにて40円台半ばの価格帯から、やや上昇中。 一般形鋼は中国材の価格影響を受け市況の上昇感は見られないが、今月行われた関東鉄源の入札結果・米コンポジット価格上昇の影響により、市況改善が期待される。
4. 海外市場動向		昨年以來、基本的に原油・ガス需要は堅調に推移。特に、シェールガス・CSG(炭層ガス)等の非在来型エネルギー開発が北米・豪州を中心に促進されている。一方、鋼管メーカーの乱立により、供給過剰が起こっており、中国・インドを筆頭に新興メーカーの技術力向上・競争力上昇が日本材領域への侵食を進行させている。 油井管は、ここに来てガス価格の低迷を受け、米国ではマーケット下落が始まっており、在庫レベルも上昇傾向にある。これが比較的堅調なアジア・中近東などに影響して行くのではと懸念される。	中国、韓国メーカーが増産を続ける一方で、中国内需や欧州向け輸出が減少し、需給バランスが悪化している。だぶつく在庫をアジア向け輸出に振り向けており、中国輸出は約3年ぶりの高水準となっている。加えて欧州から締め出されたロシア材の流入もあり、アジア市況は冷え込んでいる。足元、中国国内の鋼板需要急減や市況低迷を受けて中国メーカーの生産鈍化は鮮明になってきているが、例年、中国では上半期より下半期の生産が落ち込む傾向があることから、今後の減少幅を注視する必要がある。	中国市況は値下げ基調で反転の兆しが見えない。鉄鉱石や原料炭のスポット価格の下落で、悲観的な市場観測が広がり、下げ止まりが見えない。	原料及び半製品価格の下落継続、ラマダン及び夏場の季節的要因による荷動き停滞、世界的な景気減速感、中国輸入材の安値攻勢等の要因が重なり、7月から8月にかけてのアジアの棒鋼・形鋼市況は下落基調が続いている。日本の鉄筋メイン輸出国である韓国では、ゼネコン⇄電炉メーカーの月1回の価格交渉において、メーカーの値上げ希望は通らず、6月度82.5万W(約56.9円)、7・8月度80.5万W(約55.5円)にて決着。但し、足元は韓国電力の電力使用制限要請によりメーカーは工場稼働率を落としており、それが市中在庫の引き締めにつながり、市況は底値感が出始めた様子にも見える。今後、9月の需要期に向け市況改善を期待しているが、韓国電炉メーカーであるYK STEELの改修後の能力増(+20万mt/年)及び東国製鋼の仁川工場新ライン(120万mt/年)の稼働も控えており、供給過多の中での競争は激しい。
5. トピックス					国際鋼屑市況は、世界経済の減速から先行き景況悪化懸念が広がっていたが、米国コンポジット価格が急騰。360.83ドル(46.66ドル↑)内陸部の急騰目立つ。猛暑による夏枯れ深刻。先行き不透明。 8月の関東鉄源入札(H2、FAS)平均27,968円(前回比2202円上昇)数量20,000トン

鉄鋼流通問題懇談会 メーカー発言 (2012年8月)

<div style="text-align: right;">発表者</div> <div style="text-align: left;">発表項目</div>	<div style="text-align: center;">メーカー</div> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <div style="text-align: center;">J F E スチール</div>
<p>1. 需給動向 (景況感)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本経済は内需を中心に回復基調を維持している。6月の鉱工業生産指数は3ヶ月連続で低下したが先行きは上昇が見込まれており、小売業販売額、乗用車販売が好調に推移し、建設活動も上向きつつある。世界経済は、欧州の景気低迷に加え、中国など新興諸国の景気拡大テンポにも鈍化がみられ、米国ではFRBが今年の経済成長率見通しを下方修正するなど、全体的に減速感が強まっている。こうしたなか、追加の金融緩和や景気刺激策が各地で講じられているものの、欧州危機の再燃リスクもあって、当面は先行き不透明な状況が続くものとみられる。 ・ 国内の7月の粗鋼生産は前年同月比+1.2%の926万トンと5ヶ月連続で前年を上回った。(※6月920万トン) 普通鋼鋼材出荷(6月)は前年同月比3.8%減の615万トンと4ヶ月振りに減少した。一方、6月の普通鋼鋼材輸入は前年同月比▲18.0%の34.7万トンと2ヶ月ぶりに減少した。こうした中、6月末の普通鋼鋼材在庫(国内)は546万トンと3ヶ月ぶりの減少となった。 ・ 海外では、6月の世界粗鋼生産が、前年比▲0.1%の1億2790万トンとなった。また7月の中国粗鋼生産は6170万トンと5ヶ月連続の6千万トン超となるなど、中韓ミルの増産と輸出増に依然歯止めがかからず、各地で鋼材市況の軟化が続いている。夏季の不需要期を迎えた中韓ミルの生産動向が引き続き注目される。 ・ 鋼材内需の回復は斑模様の様相を呈し、慢性的な供給過剰を背景に東アジアでは需給が軟調に推移している。復興需要の顕在化が遅れ気味ななか、高水準が続く輸入鋼材圧力、長引く円高と国内製造業の海外生産シフト、欧州債務危機の長期化と中国経済の停滞など日本鉄鋼業を取り巻く環境は依然として厳しい。引き続き内外の経済動向、鋼材需給動向等へ細心の注意を払っていく必要がある。
<p>2. 需要産業動向</p>	<p>[建 築] 6月新設住宅着工戸数7.3万戸(前年同月比0.2%減)。5ヶ月ぶりのマイナス。年率換算着工戸数は83.7万戸。6ヶ月連続で80万戸超。</p> <p>[自動車] 6月国内販売48万台(前年同月比47.9%増)。9ヵ月連続前年比増。 6月完成車輸出43万台(〃7.2%増)。6ヶ月連続前年比増。 6月四輪車生産89万台(〃20.3%増)。9ヶ月連続前年比増。</p> <p>[産業機械] 7月工作機械受注 前年同月比93.2%増の1057億円。6ヶ月連続1000億の大台を維持。</p> <p>[造 船] 6月末手持工事量 2,962万GT(前月比5.4%減)。</p>
<p>3. 輸出入動向</p>	<p>[輸出] 6月の全鉄鋼輸出は、361万トン、前年同月比3.1%増。</p> <p>[輸入] 6月の普通鋼鋼材輸入量は、前年同月比18.0%減の34.7万トンと2ヶ月ぶりに減少。国別では、韓国(前年比4.7%増)が32ヶ月連続の増加となったものの、台湾(〃2.9%減)が2ヶ月振りに減少、中国(〃76.0%減)も4ヶ月連続で減少した。</p>
<p>4. 海外市場動向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国の7月粗鋼生産は、6,169万トン(前年比4%増 前月比2%増)